

...ボランティアがつくるニュースレター...

トラストネットワーク

作 成...トラスト通信ボランティア
発 行... (一財) 世田谷トラストまちづくり

〒155-0031

世田谷区北沢2-8-18 北沢タウンホール7階

Tel・03(6407)3311 Fax・03(6407)3319

<http://www.setagayatm.or.jp/>



No. 70 2015年12月

被爆アオギリ*二世

今年は戦後70年を迎え、新安保法制が国会で議決されました。平和について深く考え、過去を風化させず新しい未来へ進む年でもあります。

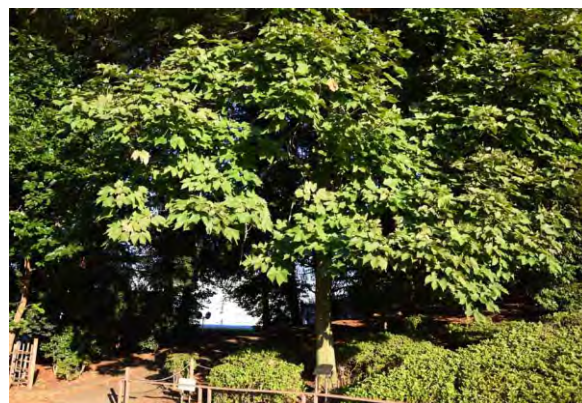
1945年、広島市への原爆投下により爆心地から1300mの地点に植えられていた街路樹の数本のアオギリも、爆風と熱線により幹の半分以上が焼ける被害を受けました。その中で3本だけが奇跡的に助かり、翌1946年には芽を吹き、花をつけたとのことでした。

その後復興に伴い広島市は被爆樹木を認定して保護していますが、このアオギリもその中の一つであり、平和公園内に移植されました。1996年に1本が枯れ、現在は2本となっています。

世田谷公園の被爆アオギリ二世

残る2本のアオギリから採取された種子や苗は被爆アオギリ二世と呼ばれ、広島市の平和活動の一環として日本国内のみならず世界中に配布されました。

世田谷公園には1992年、児童文学作家大川峰生氏より寄贈され、移植され成長を続けています(写真右段上)。



*[注] アオギリ：アオギリ科の落葉高木。幹は緑色、葉はひろく長柄がある。夏、薄黄色の小花が群がり咲き、実が熟さないうちに豆の形の種が出る。キリ(桐)とは別の系列。

世田谷区の平和祈願への取り組み

被爆アオギリ二世は平和祈念のシンボルであり、また将来に対するレガシーとして保護されることが期待されます。

世田谷区は、1985年8月15日に国内外に向けて「平和都市宣言」を行いました。これを契機として、翌年1986年「平和の祈り像」、さらに5年後には「平和の灯」等のモニュメントが世田谷公園内に設置されました。戦後70年、今年には「世田谷区立平和資料館(愛称：せたがや未来の平和館)」がオープンしています。

・平和の祈り像

1986年12月区民からの寄付を基にこの像



70号の目次

被爆アオギリ二世	1
菊の展示会・イベントDAY	3
せたがや散歩道	4
岡本公園民家園	6
創刊70号記念	7
かわらばん	8

は創られ設置されました。
ブロンズ製で高さ1.6m、
彫刻家佐藤助雄氏作。

・ 平和の灯

平和都市宣言 5 周年の
1990年8月に設置されま
した。中央部にガス灯が
組み込まれ、広島市の
「平和の灯」、長崎市の
「誓いの火」、さらに区
民や各団体の灯も合わせて点火されま
した。彫刻家向井良吉氏作。

・ 世田谷区立平和資料館

平和都市宣言の10周年に「せたがや平
和資料室」として玉川小学校構内に開
設されました。今年、30周年にあたり
世田谷公園内に移設され、装いを新た
にしてオープンしました。内部は展示
室と多目的室に分かれています。多目
的室は来秋オープンとのことです。

展示室内の常設展示はテーマとして

- ・ 戦時下の日本の社会
- ・ 東京大空襲
- ・ 学童集団疎開
- ・ 戦時下の世田谷区民の暮らし
- ・ 戦後の歩み
- ・ 世田谷区の平和への取り組み

等と広範囲です。展示方法は写真、書
類等が多く、その他当時の服装、食料
などの実物も使われていました。

とくに学童集団疎開の展示説明には、
筆者自身の体験とも重なり、複雑な気
持で特別な関心を持ちました。小学校
2年生までが対象となりましたが、今
でも痛ましい思い出があります。

世田谷公園

好天の日曜日の午後に訪れたせいか
大勢の方がさまざまな形で楽しんでい
ました。平和がもたらす幸せを味わっ



ているのだと感じました。トラスト
活動は平和のもとで進められるのだ
との思いを強くしました。

平和都市宣言

われわれの住む地球上から核兵器をなくし、
戦争のない平和な社会を実現していくことは
すべての人々の願いである。

しかし、いまなお世界の各地では、武力に
よる紛争が絶えず、一方核軍備の拡張競争は
一段と激化し、世界の平和に深刻な脅威をも
たらしている。

われわれは人類永遠の平和を樹立するた
めに、核兵器がこの地球上からなくなる日を心
から願うとともに、我が国が今後とも核兵器
をつくらず、持たず、持ち込ませずの「非核
三原則」を堅持していくことを強く望むもの
である。

世田谷区は平和を愛する区民の願いにこた
え、核兵器の廃絶と世界に平和の輪を広げて
いくことを誓い、ここに「平和都市」であるこ
とを宣言する。

昭和60年8月15日

世田谷区



世田谷区立平和資料館



世田谷公園

参考資料

世田谷区立平和資料館(ガイドブック)
世田谷区発行 平成27年 8 月

フラワーランド 菊の展示会・イベントDAY



フラワーランドで菊の展示会が10月27日から11月15日、イベントDAYが11月1日に開催されました。11月1日は秋晴れに恵まれ、早朝から多くの方が余剰苗チャリティー頒布や講習会等に参加するため来場されました。一番の人気は季節がら菊の花。チャリティー頒布では展示用の懸崖の菊まで要求され担当者も断るのに四苦八苦。

菊の育成講習会

菊づくりの作業予定表に基づき大菊の場合は、5月にさし芽、6, 7, 8月ごとに大きい鉢に植え替えることなど説明があり、質問では水やりや肥料の散布時期、量などの質問が多く、肥料をやりすぎた場合は葉が丸くなるので石灰で中和させるとのこと。

秋のミニブーケづくり

園内の花を用いるミニブーケづくりは相変わらず人気があり、午前も午後も予定人員オーバー。一列に並び順番に一人ずつ園内で咲いたバラ、ケイトウ、千日紅等の花7本、草木の葉3本を選び、束ねてリボンをつけてもらうのですが、最初に選ぶのがバラの花。その色に合わせて紫・赤色などの花を選びますが、配色・高さ等のバランスが難しく子どもたちも難渋。それだけ

にリボンをつけてもらった時はうれしそうでした。



ガーデンツアー

ガーデンツアーは園内の多くの植物について花や果実などの写真を交えて説明されましたが、珍しい植物も多く、参加者も熱心に聞いていました。ビックリしたのはバラの名前です。構内のユズリハ通りの用水堀沿いの花壇に2～3年前に移植されて美しく咲いている花が、プリンセス・ミチコ、クイーン・エリザベス、クラウンプリンセス・マルガリータ、シャルルドゴールなどの有名な名前のバラということを知りました。皆さま方も是非これらの美しいバラの花を見に来てください。

バラガーデンの案内

参加者を2班に分け、それぞれがバラガーデンに植えられている47種について花の色、香り、葉の形、病気などについて説明を行うとともに、病虫害防除のため植えられているハーブなどの説明を行っていました。

花まつり限定のハーブカフェ

天候に恵まれたためか家族連れが多く、ハーブティーを求める人が続出し担当者も大活躍でした。

せたがや散歩道

文学の散歩道

～蘆花恒春園コース～

「せたがや百景」39

蘆花恒春園（粕谷1-20-1）

門を入ると、左手に事務所があります。園内の雑木林は奥まで明るく見渡され、武蔵野の風景を見せられた思いでした。

爽やかや匂帖取り出す木のベンチ

蘆花記念館 この記念館は昭和36年（1961）に建設され、蘆花の作品や原稿その他の遺品などを展示しています。

蘆花年譜と共に「蘆花とトルストイ」「自然と人生」「みみずのたはこと」「耕して書く」「蘆花の旅」など項目ごとに公開されています。

特に蘆花文学の初版本や蘆花の描いた絵画、使用した遺品がそのまま展示されていました。

人に会い人を語りて秋惜しむ

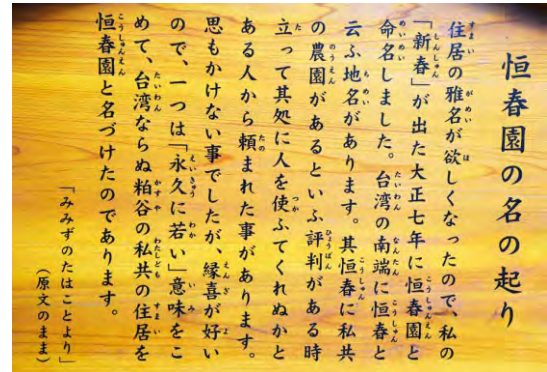


母屋（移住当時の居宅）

明治40年（1907）から昭和2年（1927）までの20年間、愛子夫人とともに生活した所です。

時代の流れを忘れて、書斎でペンを走らせる文豪蘆花の姿が浮かびました。

大正7年（1918）頃に、蘆花は台湾の恒春というところに農園を持っているといううわさがたちました。



恒春とは永遠に若いという意味で縁起がよいので恒春園と名付けたのです。

秋水書院（奥書院）

母屋の入り口から廊下を渡って行くと奥書院の書斎があります。

蘆花が使用していた時のままに保存されている書斎で、ありし日の文豪の姿を思いうかべました。



梅花書屋（表書院）

廊下の途中から梅花書屋（表書院）を見学できました。ここでは「蘆花会」などの行事が催



されています。

蘆花夫妻の墓

粕谷の地を愛し粕谷の土になるといった蘆花は、伊香保で亡くなり恒春園のくぬぎ林の中に葬られました。隣に愛子夫人も眠っています。



身代わり地蔵

恒春園には、蘆花が生涯たいせつにしていた地蔵尊が今も残されています。

「身代わり地蔵」といってこの地蔵は、高尾山の麓の墓地から入手した六地蔵の一体で、台石の横に「宝永四年」と彫られています。



宝永四年は富士山が大爆発した年でした。この地蔵は天災に縁があり、大正12年9月の関東大震災で横倒しとなりました。

蘆花は自分たちの身代わりになったようなものだからと「身代わり地蔵」と命名しました。

木の实拾う何の木の实と知らぬまま



写真説明 ・右下側切株が枯れた杉

- ・中央の鳥居右側に見えるのが二代目の杉
- ・鳥居のさきに見えるのが粕谷八幡神社本殿

別れの杉 「せたがや百景」39

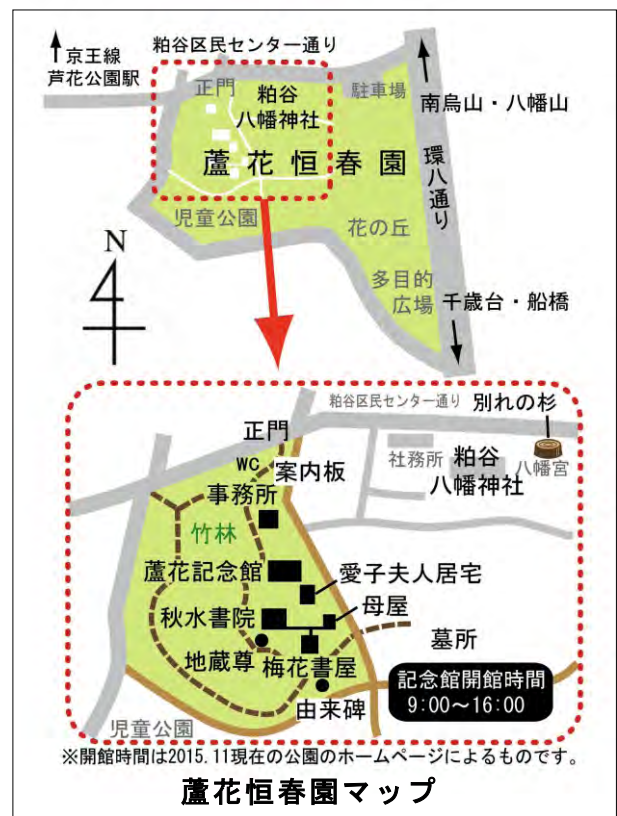
粕谷八幡神社前（粕谷1-23-18）

蘆花は訪ねて帰る人を、いつも粕谷八幡神社の入り口の杉の下まで見送っていました。

それは、ここで別れて死別となったことや、またたとえ生きていたとしても再び会えるかどうか分からぬ人も少なくなかったからです。

そこで蘆花は著書の「みみずのたはこと」中にこの杉を「別れの杉」と名づけました。

杉は第二次世界大戦後に枯れましたが、名を惜しんで二代目の杉が神社の氏子の手で植えられました。立派に育つように大切にしましょう。



参考資料

- ・「一步二歩散歩」世田谷区 昭和62年
- ・「せたがやの散歩道」世田谷区 昭和55年
- ・「ふるさと世田谷を語る」世田谷区 平成7年
- ・「徳富蘆花集」明治文学全集42 筑摩書房

交通

京王線 「千歳鳥山」または「芦花公園」
下車、徒歩15分

岡本公園民家園を訪ねて

～古民家解説会～

世田谷区教育委員会によって催される古民家解説会に参加しました。当日は前日の雨が上がり、すっきり晴れた空の下、生涯学習・地域・学校連携課民家園係の林さんの説明を伺いました。

ここ岡本公園民家園は、川崎の生田緑地、大阪の服部緑地に次いで日本で三番目に出来た民家園だそうです。

小田急線「成城学園前」駅南口からバスで約20分、「世田谷総合高校」で下車して徒歩5分ほどです。

多摩堤通りの自動車の往来を少し離れただけで思いがけなく現れた国分寺崖線の緑地に、野鳥の声が響きます。

昭和50年代のはじめに解体、移築された、瀬田百姓代の旧長崎家住宅主屋を中心に、江戸時代後期の佇まいを出来るだけ忠実に再現しながら、旧浦野家住宅土蔵、旧横尾家住宅椀木門（うでぎもん）が配置されています。



旧長崎家住宅主屋



旧横尾家住宅椀木門

建物の脇には、使い込まれた農具、脱穀機、唐蓑（とうみ）、粳摺機や縄綯機

（なわないき）などが置かれ、台所と

しての土間には大釜やへっついが設えてあります。この大釜は、今も、正月の行事の一環として、餅つき用のご飯を炊いているそうです。

裏手には、竹林がしっかりと根を張り、移築当時のままの崖線の木蔭に、歴史遺産岡本隧道の一部がひっそり見え隠れするのも興味深いことでした。

移築工事中台風の襲来で建物が倒壊したこともあって、復元には伝統的工法にさらに、新しい建築技術を加えて完成、昭和55年開園したと聞きました。ちなみに、この旧長崎家住宅主家は、区指定有形文化財第1号だそうです。

古民家を修理するための、例えば屋根を葺く素材や、壁づくりなどの職人さんの減っている昨今、その維持、管理にはいろいろご苦労があることでしょう。

主屋の前の庭先には、家族が飲むための茶葉をとる茶垣、紙を漉くためのミツマタやトロロアオイなどが植えられています。

茶摘みや紙漉きの時季に訪れれば、いっそう身近に往時の生活が感じられるかもしれないと思いました。時間の流れがゆるやかになるような、小春日和のひとときでした。

参考資料：「ようこそ民家園へ」「民家園のこよみ」民家園、「あるじでえ」区教育委員会 民家園係

場所；世田谷区岡本2-19-1

電話；03(3709)6959

開園時間；9:30～16:30

休園日；毎週月曜日（祝日にあたる時は翌日）と12/28～31日、1/2～4日

アクセス：小田急線「成城学園前駅」から東急田園都市線「二子玉川駅」行きのバス、またはその逆のバスで『世田谷総合高校』下車、徒歩5分

トラストネットワーク創刊70号記念 作成メンバーからの寄書

フラワーランド友の会に所属して、通信ボランティアにも属し、フラワーランドを本紙上で紹介しています。

友の会の仲間の一団体「かだん23」の中心であったKさんが今年3月末急逝されました。その団体の会長役の私は実務をすべてKさんに任せていたので、年度末の事務処理が大変でした。14歳も開きのあるKさんが先に逝くとは。Kさんのご冥福を祈ります。(S O)

区報を見て「せたがやトラスト協会」のボランティア会員になり、トラスト・ネットワーク17号の編集に2004年1月から参加しました。その後協会は「世田谷トラストまちづくり」に変わりました。当時カメラはフィルム式、ワープロで文章を書いていました。現在カメラはデジカメになり、パソコンで文章を書いています。印刷と折込みは、初心を忘れずにまだ自分たちでやっています。(S K)

発送の手伝い位は出来るかと参加して、多少は取材、編集にもかかわるようになりました。おかげで、世田谷に関していろいろ知ることができます。一方、毎号の最終段階で、印刷、折込みなどの手作業をしながら盛り上がる、先輩や若い人とのお喋りも楽しい。人生幾つになっても良い出会いがあるものです。(A K)

通信ボランティアに参加して10年以上経ったかと思います。活動を通して、世田谷という地域の自然の豊かさや歴史を知ることができ、私はますます世田谷が好きになりました。近年は、畑が次々に家に変るなど、緑は減る一方ですが、自然や歴史の面影を残すことにより、まちが魅力的であり続けるよう、これからも微力ながらお手伝いを続けたいと思っています。(S S)

通信ボランティアに参加したのは10年以上も前。編集作業にはほとんど携わらないまま、途中お休みしつつ、ほぼ折込作業だけでいまやすっかり古株です。初めて参加した頃、写真はプリントし、手書きのイラストをコピーして貼っていたのも懐かしい。原稿を手紙で送ったこともありました。手作業は大変でしたがそれも楽しかったです。色々なモノやコトが大きく変わったのを感じます。(M T)

久しぶりに「トラストネットワーク」という本紙の名前が決まった時の記事を探してみました。1999年10月25日発行のNo. 2に懐かしい写真が出ていました。

これからも「トラストネットワーク」はいつまでも発展しますように。(Y T)

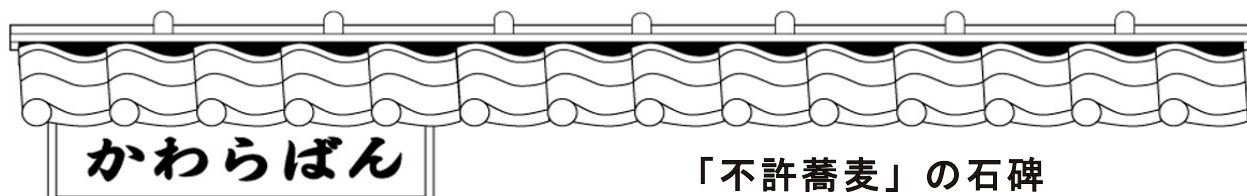
トラストネットワークの編集に関わるメンバーは夫々個性豊かな世界観をお持ちで、編集会議の話題は記事の内容検討を超えて多岐に亘ることから興味深く参加させていただいています。お陰様で自然に接する心構えや植物・生き物の観察法が勉強できました。

また取材した記事を編集会議で批評したりされたりすることで文章力が向上したように感じています。

自分の住んで居る世田谷の記事をするために見学したり調査したりして得られた知識が最高の財産です。(I N)

2001年7月発行の7号から参加しました。B 5判サイズから現在のA 4判サイズになり、活字も見やすくなったのは、2013年6月発行の60号からです。

今年で約15年間本紙に関わって来たこととなります。その間の編集印刷方法は世の中の進歩とともにずいぶん変わりました。I T化により出来上がりの体裁も改良されました。残るのは内容の進歩でしょうか。(M M)



トラストネットワーク

No. 69 を読んで

・生物しらべガイダンス

今後の結果が楽しみです。

・地域戦略策定の背景

表になっていて分かりやすい。

・生きものおもしろ講演会

子どもたちとのやりとりから生物にとってバランスが大切であり、生物多様性が重要と語りかけていました。

・空き家等地域貢献活用をめざして

[事例見学会] シェア奥沢でオーナーの利用しやすい工夫がうかがわれます。
[利用相談会] 写真とともに家の様子が分かります。近隣の方々の利用されている様子が分かります。

・フラワーランド園芸講習会～庭木の手入れとその病害虫対策

剪定の道具にいろいろな種類があると感心しました。枝の切り方の原則が沢山あり、受講者の熱心な様子がわかり、好い講習会だと思います。

・せたがや散歩道～玉電砵線廃線跡

世田谷古地図の掲載は昭和30年当時を彷彿とさせました。

砵線廃線跡を意識したまちづくりの成果が見られることは素晴らしいと思いました。要所の写真と様子の語り口、また俳句が散歩への興味をそそります。

「不許蕎麦」の石碑

北烏山の寺町に「称往院」（一心山極楽寺）というお寺があります。江戸時代、その院内に「道光庵」という支院がありました。その庵主が信州の人で蕎麦好きだったので、檀家の人たちに蕎麦をふるまったところ、たいへんな評判となりました。やがて檀家だけでなく一般の人も蕎麦を食べにくるようになり、あまりの繁盛に見かねた親寺の称往院が、門前に「不許蕎麦」の石碑を建てて蕎麦づくりを禁止しました。その石碑が現在も、称往院の本堂の前に建てられています。

なお、蕎麦屋の屋号に「庵」（長寿庵など）の字が使われているのは、蕎麦が評判だった「道光庵」にあやかったものだそうです。

いきものさんぽ

彩草会

ニホンスイセン (ヒガンバナ科)

この素朴な
スイセンは
意外にも故郷は
地中海沿岸で
海流に乗って
漂着した様です



編集後記 蘆花恒春園の取材に関連し、徳富蘆花著「みみずのたはこと」を読んで当時の世田谷を知りました。時速は哩、気温は華氏で記述されていて、明治は意外とアメリカ的だったのだなと感心したり、こぶし大の雹が降った……ここらは雹や雷が多いとあるのには、去年の雹は温暖化の影響ではなかったの？と、今の日常と比べたりして興味深いのでした。

70号作成に係ったメンバー

大泉定雄 片寄正史 北畠明子 須永澄子
高梨麻実 田澤與光 野武一郎 宮下正雄